（様式２別紙）

# （団体名）認定特定非営利活動法人底上げ
# （事業名）南三陸町における持続的な高校生の地域活動の促進事業　**ロジック・モデル**

| インプット | 活動 | アウトプット | アウトカム | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 初期 | 中期 | 長期 |
| 自然科学部の地域活動の支援、資金の支援 | 農林水産課と協働で川と干潟の調査、調査結果の図鑑の作成 | 自然科学部と町の協働のPJが実施され、調査結果の冊子が完成する。 | 冊子が町内各地に置かれ、干潟に対する理解が進む | 人々が干潟に訪れたりしながら、干潟の重要性について知る | 町の干潟が守られ、町民が誇れる干潟となる |
| 町内出身大学生の地域活動の支援、資金の支援 | 町内出身の大学生が自分の町で主体的に活動を行う。 | 町内出身の大学生が1つ以上の地域に関わるPJの企画運営をする。 | 大学生の活動が活発になる | 町を離れても地域に関われるという考え方が町に浸透する | 町に関わる大学生が増え、自分の地域を自分で活発にしていくことができる |
| 冊子作成(専門家等)の支援、資金の支援 | 高校生が地域と関われるようなノウハウ共有冊子を作成する | 地域内外に3回以上の共有を行う。 | 共有を重ね、高校生との協働の理解が進む | 地域の企業や団体が自分たちで高校生を巻き込み社会参画の機会を作る | 高校生の社会参画により主体的な若者が輩出され、より活発な地域になる。 |
| 教育教材作成の支援、資金の支援 | 町内の子どもが自分の暮らしや仕事も考える教育教材を作成する | 30人が体験する。また町内の公民館に設置される | 子どもが自分たちで教育教材で遊び、新しい仕事や働き方について知る | 町内に自分たちの将来についてかんがる子どもが多くなる | 子どもたちの中に地域に残る、帰ってくることも選択肢に入り、地域の活性化につながる |